

海洋ごみ問題の解決へ

白糠高校生徒が漂着物分別調査

【白糠】白糠高校（田村信明校長）の2年生20人が12日、「総合的な探究の時間」（白糠学Ⅱ）の一環で漂着ごみの分別調査を行った。漁業や海洋ごみ問題をはじめとする環境問題への理解を深め、課題解決に向けて取り組む姿勢を養うことが狙いで、今年度から始まった。

海洋ごみ対策の取り組みを世界に発信する日本財団・環境省合同事業「海ごみゼロアワード」の調査研究活動として行う。

生徒は白糠漁協前で、漁の際に回収された漁網や縄、空き缶、ペットボトルなどのごみをコンテナから取り出して分別し、種類などを記録した。学校に戻った後、ごみはなぜ漂着したのか、減らすためにはどうしたらいいかを話し合った。

伊藤将史教諭は「日本の



一角であれだけのごみが出てくるのであれば、海全体でどのくらい量の量があるのか想像がつくはず。そういうことを考えて次の授業に

臨んで」と呼び掛けた。木村叶さんは予想以上のごみの多さに驚きながら「海洋ごみの問題は自分には関係ないというのではなく、生活や環境のことを考えて見る目を変えることが大切だと思う」と話していた。

海洋漂着ごみを分別する生徒（白糠町役場提供）